

第19期生（2年生）技能照査 実技試験 課題の「化粧棒隅木」、受験者全員が完成



1月16日（土）、17日（日）に行われた第19期生（2年生）「技能照査 実技試験」課題の「化粧棒隅木」を受験者全員が完成させました。写真。

最後の一人、設計職の女性は延長の一時間を使い切る午後6時直前の完成でした。その直後、クラスメイト全員からの祝福の歓声、拍手に包まれながら涙、涙の感動のラストとなりました。全員、一生忘れることのない体験となるでしょう。

カレッジ通信

発行
東京建築
カレッジ

私たちの卒業制作、 ぜひ見に来てください！

2年生の卒業制作発表会は、2月21日（日）午後、池袋校舎で開催します。現在、「別荘

の設計班」「行灯班」「水車小屋班」「床の間班」「入母屋屋根班」それぞれが制作の大詰めに入っています。観覧ご希望の方は、お気軽にご連絡ください。カレッジ教育の値打ちを実感していただけます。

第21期生
最終！
応募締切
3月3日

第21期入学生 第5回募集

- ◇学校説明会 2月24日（水）
午後2時・午後7時の2回
所要時間約90分です。
- ◇応募締切 3月 3日（木）
- ◇試験日 3月 9日（水）
午前10時から。

※いずれも池袋校舎にて

授業は、毎週金曜・土曜日。ご都合に合わせて見学できます。（要事前予約）

※応募方法、入学試験などについては、お気軽に資料をご請求ください。

TEL 03-5950-1771 教務 西岡、吉川

1年生「建方・上棟式」無事終了

第20期生（1年生）の「建方・上棟式」実習が、1月22・23日、事故なく無事に終わりました。

は着実に成長しています。反省会で先生方から指摘された至らない部分も、卒業までに克服してくれと信じています。



●就労支援に協力

2年生指導員責任者の片岡茂樹先生は1月23日、「たちかわ若者サポートステーション」で行われた「ものづくりマイスターから学ぶ仕事の基礎」で講演し、働くことについて悩みを抱えている若者に、建築大工の仕事の誇りを語りました。

たちかわ若者サポートステーションは、若者の就労支援を目的に、厚生労働省が認定し全国に設置する「地域若者サポートステーション（サポステ）」の一つ。

●「建築ジャーナル」カレッジの魅力紹介

建築専門誌「建築ジャーナル」は1月号で、新人記者による建築カレッジ一日授業体験リポートを掲載しました。朝礼から終礼まで研修生と一緒に受講してもらったため、学校の雰囲気がよく伝わるものになっています。同誌の承諾を得て、裏面に掲載しました。

今月の山崎くん!

多様な建築の現場を訪ねて

新連載

今月の訪問先—

東京建築カレッジ

東京都豊島区池袋1-8-6

TEL—03 (5950) 1771 / FAX—03 (5950) 1774

新米編集者が一日入学!? 建築職人学校!

「うるせえ!」学生(以下、研修生)の怒声が教室に響く。1限目の授業でのことだ。授業中「もう分からん」と投げ出し、雑談する研修生にほかの研修生が怒鳴りつけた。「おめえら説明聴いてねえじゃねえかよ。分からん、分からん言うな!」。日常茶飯事なのか、何事もなかったかのように授業は続く。陰鬱な雰囲気にもならないのは互いのつながりが深いからか。

池袋北口から歩いて10分。平和通り商店街沿いにある「東京建築カレッジ」は伝統的な手刻みの大工技術を基礎に建築の全工程を総合的に教える短期大学校だ。プレカットが主流の現



池袋本校の写真。学校前の通りでは毎年秋ごろ、「東京建築カレッジ祭」を開催。本校とは別に江東区には実習場があり、1年時にはそこで2階建ての家を木造軸組の伝統構法で丸々1棟建てる。

況の中、伝統的な大工技術を学びたいと若者たちがこの学校に集まる。研修生たちは、現場で働きながら金・土の週に2日、学校に通う。建築に関わる職場で働いていることが入学の条件になっており、学校・職場の両輪で実践的な力を身に付ける。学校としては珍しく労働組合(東京土建一般労働組合)が母体となっており、授業料など研修生が負担する費用はかなり低く抑えられている。2年間のカリキュラムと技能照査をクリアすると、2級建築士の受験資格と、技能士補の資格が得られる。

さあ、学校に潜入です!

取材当日、少し早めに学校へ着くと教務の

吉川さんが学内を案内してくれた。エレベータの扉が開くと木のにおいが鼻いっぱい広がる。地下1階は演習室になっていた。研修生が自主練をしていて、挨拶すると3倍くらいの声で返された!(早い人だと授業前の朝7時から練習しているらしい)。2階は情報演習室、3階は教室と図書室になっていて、1階フロアや階段には過去の研修生たちの作品やパネルが並ぶ。

いざ、授業へ

朝礼で中学以来になる黒板前での自己紹介。午前中は2年生の授業、午後は1年生の授業に参加した。隣の席は設計事務所働きながら学校に通っている女の子。大工だけでなく設計者から造園家まで、職種・年齢・性別・国籍まで違うさまざまな研修生たちが一つの教室で学ぶ。

1時限目は「規矩術」の授業。「規矩術」は差金というし字の定規一本を使って仕口や継手をつくっていく伝統的な大工技術。「勾・父・玄、長玄・短玄、こうやって線を引っ張ったら、ここが入中になって、ここが出中、本中になる」……。むむむ、やばいぞ、何も分からん!

すでに社会に出て働き学ぶ動機が確かだからか、雑多さが生み出すエネルギーか、研修生たちは質問や、自分の意見を言うのに躊躇がなく、授業中少しでも分からなければ「〇〇ってなに?

建築に関するさまざまな現場に新米編集者・山崎が潜りこむ。始業から、終業までその一日を体験し、現場の真摯な取り組みを伝える。



地下1階の演習室。ベニヤ板を下敷きに、技能照査の課題「柵欄木」の設計図を描く。作業する研修生の目は生き生きとして真剣だ。先生の何人かはカレッジの卒業生。ここで学んだ研修生が今度は救える側に立ち、新しい職人を育てる。「今度先輩の現場を手伝いに行く」という話も何人かから聞いた。研修生同士のつながりの強さもこの学校の特徴だ。

なんでそうなるの?」と次々に質問が飛ぶ。とはいっても真面目な質問ばかりでなく軽口も結構多い。人によっては騒がしい、落ち着きがないと感じるかもしれないが、お行儀のよさでなく、こうした「活気」こそが、人の成長の場には必要なものだと感じた。

その後、2限目の積算の授業、3限目の設計の実習、午後からは1年生のCADの授業、構造力学の授業に参加した。科目の多彩さからも分かるように、この学校では伝統的な手刻みの大工技術だけでなく建築にかかわる総合的な知識と技術を学ぶことができる。

建築職人のいま

「住宅の基本は木造にある」。カレッジの先生の言葉だ。日本の風土と生活の中の知恵が収斂された形として日本の木造住宅は独自に発展してきた。その中で培われた技術が、技術の根っこにある考え方(哲学・思想)が、いま失われつつある。授業を体験し、技術や考え方的一端に触れたことで、そうした危機感がどっと増した。そんな中、こうした学校で努力する若者がいることは希望である。需要供給の原理や経済理論に任せて放置し、長い歴史の中でつくり上げられてきた技術を絶やしてしまっているものか。トキじゃあるまいし、激減した後に慌てて保護したのでは遅すぎる。



構造力学の授業。手で簡単に折れるくらい細さのヒノギ(4mm角)をカッターで切り、ひもで縛って組み合わせ試供体をつくる。中央部に重りをぶら下げ、20kgに耐えられれば合格。構造とひもの縛り方(施工性)が成否を握る。

東京建築カレッジでの一日のスケジュール

8:35

朝礼

8:45

施工演習

10:35

休憩

10:45

建築積算

12:15

昼休み

13:15

建築情報管理

10分

休憩

15:55

構造力学実験

10分

休憩

18:35

終礼